

道徳教育にかかわる現状と課題

部長 渡辺 仁平

1 道徳教育の動向

各地区では、昨年度から先行実施されている新学習指導要領を踏まえ、道徳的实践力を高めるために工夫した取組が行われている。取組の概要を紹介する。

【上越地区】

田沢小学校では子どもの道徳性の育成を目指して、モリストレーニングの手法を取り入れた授業実践を行っている。新井中央小学校では人権教育、同和教育の視点で様々な教育活動を展開している。春日小学校では「自分を見つめ、豊かにかかわり合う子どもの育成」のため、心と言葉の両面から社会性の育成を図る取組を行っている。比角小学校では指定研究発表会で「道徳学習の単元化」について実践を紹介した。

【中越地区】

中魚沼郡・十日町市教育振興会道徳部では、「望ましい人間関係をはぐくみ、よりよい自己のあり方を目指す道徳授業の改善～自己肯定感を高める道徳の時間の指導～」をテーマに研修を進めている。上教大 林教授が示唆されている「体験活動と連動させた道徳の時間、モリストレーニングなど多様なアプローチを用いた道徳の時間」の授業モデルを作成し、授業改善に取り組んでいる。

【下越地区】

三面小学校では、文部科学省道徳教育研究の指定を受け、「自らを見つめ、他を思いやる心を育む道徳授業～かかわりを重視して～」に取り組んでいる。また、中条小学校では、文部科学省豊かな体験活動推進事業の指定を受け、「『ふるさとを愛する子ども』を育てる学びの体験～ふるさと再発見！ふるさとのよさを発見、ふるさとの学び、ふるさとを学ぶ～」に取り組んでいる。

【新潟市】

研究主題「未来を拓く力を育む道徳授業～子どもたちの夢や希望が膨らむ授業を目指して～」を掲げ、指導案検討、授業研究2回、実践発表会、佐藤幸司先生の講演会等を核に一人一役の部会運営、小グループ討議、子どもに返そうをモットーに56人の部員が研修に取り組んでいる。本年度は市教育委員会と共に新教育課程の年間指導計画の参考例の作成にもあたり、道徳教育の環境整備や授業の改善に役立つ取組を行っている。

2 道徳教育の課題

児童の自己肯定感を高めていくことが課題となる。また、人間関係づくりや生活体験の不足、規範意識の低下などを踏まえて、道徳的实践力を高めていくための授業改善も必要である。そのため、道徳教育推進教師の役割を明確にするとともに、保護者・地域との連携を深め、体験活動と関連付けた魅力ある資料や話し合い活動の充実を通して、心に響く授業実践を行う必要がある。さらに、道徳の時間の評価をどのようにしていくか、より一層の研究をしていく必要がある。